



# The book of craz vol.6



For adult only



mechi

## Contents

クロアジのセックスしないと出られない部屋	3
クロがヴァンパイアだったらの小話	44
星のゆくえ	115



当同人誌をお手にとっていただき、誠にありがとうございました。  
お手に取って読みたいと思っていただき、ありがたく思います。

天国と地獄がうつかり開戦しかけたガブリエル改めジムモといガブリエルとベルゼブブの厄介な騒動が一件落着（？）し、そのどきくきにニーナとマギーの恋模様もなんとなく前進したあの日から数日後。

意識高めのグロツサリーで手土産を仕入れた俺は、いつものようにアジラフェルの本屋に向かった。

今日はちみつつぶりのパウンドケーキ。ロックダウン中の飲み過ぎで、天使はとつくにタピオカを喜ばなくなつたから、それ以来流行<sup>はやり</sup>を追うことはやめて、手を替え品を替えバラエティに富んだチョイスをしている。

先日は、ストロベリーが入った「ダイフク」とかいうべたつくジャパンのモチ菓子が大ヒットだった。あんな泥みたいのをべとべとで包んだケーキはとてもしゃないが美味そうに見えないが、意識高いスイーツ情報サイトが世界一ヘルシーだとか言つてゴリ押ししてたから選んだ。人の世にはびこる情報の9割は虚飾と嘘だが、「ヘルシーなら」つてことで天使は一気に

3つを平らげた。（実のところ、ヘルシーだろうがなかるうが天使には関係ない。）気に入つてくれて本当によかった。

話は戻り、いつものように本屋に入り、ボタンと背後でドアが閉じた時、突然、「視界が真っ白になつた」。

「…あ？」

何が起きたか、わからなかった。

顔を上げると、奥にアジラフェルがぼつんと立つていた。本屋の内部は字のごとく真っ白で、あらゆる一切合切の物が消え失せている。

そして、こちらに気づいた天使は、ぽかんと呆気にとられていた。

「…天使？なんだ、これ…？」

「…クロウリー？君の仕業かい？」

そんな怪訝な顔でこっち見んな。

「まさか、バカ言え…」

ぐるりと見回すと、この「白い空間」は本屋くらいの